甲賀市企業人権啓発推進協議会広報

共に生きる

第43号
2026年6月

発行・編集
甲賀市企業人権啓発推進協議会
事務局
甲賀市産業経済部商工労政課内
TEL 0748-69-2189
http://www.ac-koka.jp/koka-kijinkyou/

甲賀市企業人権啓発推進協議会（以下企人協という）

第22回総会にて全議案承認


挨拶する山村会長

2026年4月24日(金)14：30より碧水ホール(水口町)において企人協第22回総会が開催されました(出席者78名、委任状105名)。
総会の前には、令和7年度人権標語優秀作品の表彰が行われ、12名の入選者に山村会長から表彰状と副賞が授与されました。

総会の冒頭に、山村会長から挨拶があり、『人権への取り組みは、企業の持続的成長を支える経営の核そのものである。働く人みんなが「自分らしく安心して力を発揮できる職場」を築くことが、イノベーションを生み、企業の競争力につながると確信している。企人協にて、この大きな課題に対する解決のヒントを共有できればと願う。「誰もが輝ける社会」の実現に向けて共に進んでいきたい』との力強い発言がありました。続いて、来賓の甲賀市副市長　伴孝史様、および甲賀公共職業安定所所長　今村嘉浩様から祝辞をいただきました。


人権標語入選者の皆様

その後、提案された5議案が原案とおり賛成多数で承認されました。

第1号議案	2025年度事業報告について	第4号議案	2026年度収支予算(案)について
第2号議案	2025年度収支決算について	第5号議案	2026年度役員(案)について
第3号議案	2026年度事業計画(案)について		

令和8年度(2026年度) 甲賀市企業人権啓発推進協議会　役員・専門部体制

役　職	氏　名	企業・事業所名
会　長(雇用部長)	山村　良司	甲賀協同ガス㈱
副会長(雇用部)	堤　照司	住友電工ウインテック㈱
副会長(雇用部)	田中　健二	近江鉄道㈱土山サービスエリア
副会長(雇用部)	藤岡　正行	㈱コーガアイソトープ
副会長(雇用部)	森澤　栄樹	㈱アークレイファクトリー
事務局長(雇用部)	木下　憲司	甲賀農業協同組合
理事(啓発・広報部長)	中嶋　大展	甲賀バラス㈱
理事(啓発・広報部)	内田　宏文	ニッポンロジパック㈱
理事(啓発・広報部)	石田　一樹	(社福)甲賀学園
理事(啓発・広報部)	谷村　賢一	(社福)あいの土山福祉会
理事(啓発・広報部)	重田　正雄	山一化工㈱滋賀工場
理事(啓発・広報部)	田代　憲一	セキスイボード㈱
理事(啓発・広報部)	東川　弘美	㈱ジーテクト
理事(啓発・広報部)	宇野　友一	㈱滋賀松風
理事(研修部長)	奥嶋たみ子	(社福)信楽福祉会　信楽荘
理事(研修部)	堀井　利紀	甲賀農業協同組合信楽支所
理事(研修部)	河合　真一	㈱日立建機ティエラ
理事(研修部)	田井中　洋	滋賀交通㈱水口営業所
理事(研修部)	岡尾　幸一	西川ローズ㈱甲賀事業所
理事(研修部)	山下　恵子	日新薬品工業㈱
理事(研修部)	高阪　裕貴	医療法人社団仁生会甲南病院
理事(研修部)	原田　道彦	㈱滋賀銀行水口支店
監事	藤原　郁夫	㈱水口テクノス
監事	駒澤えりか	㈱滋賀銀行大原支店

2025年度　人権標語優秀作品

最優秀作品

変わるのは　誰かじゃなくて　私から
ピー・エス・コンクリート㈱(現　ピーエス・コンストラクション㈱)　野　村　瑞　穂

優秀作品

あいさつは　心のドアを　開くカギ
甲賀農業協同組合　中尾　芳則

その書き込み　面と向かって言えますか
公益財団法人あいの土山文化体育振興会　松岡　由香利

認め合い　ともに歩む　多様な未来
トヨタ紡織滋賀㈱　白杉　直子

一人一人の良いところ　気づいて活かして　かがやく社会
近畿労働金庫水口支店　北浦　直美

ミャクミャク(脈々)と　広げよう　未来輝く　人権の輪
社会福祉法人甲賀市社会福祉協議会　合屋　圭子

先入観　未来の光を　遮断する
TOTO ㈱滋賀第二工場　旭　光輝

あいさつと　感謝の言葉を　自分から　みんなで作ろう　明るい職場
住友電工ウインテック㈱　足立　茜

お互いに　少しの譲歩と思いやり
甲賀協同ガス㈱　前川　智樹

見直そう　勇気をもって　自分から
医療法人社団仁生会甲南病院　増山　善則

その考え　とらわれていませんか　「先入観」
㈱滋賀松風　富本　莉央

認め合う　その優しさで　個性がいきる
京都建物辻正㈱　増田　守

2026年度　事業計画

1. 会議
- 総会開催　4月24日
- 理事会・専門部会　適時

2. 研修部
- 総会特別研修　4月24日
- 経営者トップ研修　7月10日
- 人権フォーラム　9月
- 会員企業従業員対象フィールドワーク研修　10月
- 会員企業従業員対象人権研修　12月
- 役員対象フィールドワーク研修　2月

3. 啓発・広報部
- 広報誌『共に生きる』発行年2回　6月・12月
- 会員企業向け啓発グッズの配布　6月～7月
- 甲賀市人権教育研究大会　9月
- 人権標語の募集　12月
- 人権標語のステッカー配布　3月
- ホームページの更新　都度

4. 雇用部
- 役員対象障がい者雇用にかかる学習会　11月

5. その他
- 会員獲得に向けた取り組み　年間
- 関係団体との連携　年間

7月は「なくそう就職差別 企業内公正採用・人権啓発推進月間」です

2025年度従業員対象人権研修 【2025年12月5日(金)】

演題:「インターネットと人権」　生成AI時代の情報モラルと人権意識の在り方
講師:京都ノートルダム女子大学現代人間学部こども教育学科兼社会情報課程教授　神月　紀輔　さん

本日の講演を拝聴し、テクノロジーが劇的に進化する現代において、私たちが守るべき「人権」の在り方を改めて深く考えさせられました。特に印象的だったのは、AIやSNSという便利な道具が、使い方を一歩誤れば容易に他人を傷つけ、深刻な人権侵害の加害者になり得るという現実です。

講師の先生は、差別やいじめといった人権軽視の行為は、多くの場合「無知」から生まれると指摘されました。正しい知識を持たず、情報の真偽を確かめないまま、周囲の意見に流されて誰かを排除する。こうした「思考の放棄」こそが差別の温床であるという言葉に、強い危機感を覚えました。インターネット上では情報の送り手と受け手の境界が曖昧になり、誰もが瞬時に発信者になれます。だからこそ、自分の発する言葉が誰かを傷つけていないか、その情報の背景に何があるのかを正しく知ろうとする姿勢が、人権を守る第一歩であると感じました。

また、ネット依存がもたらす判断力の低下についても大きな学びがありました。睡眠時間を削ってまでスマホに没頭することで脳が覚醒し続け、正しい判断ができなくなる。その結果、自分の行動に責任を持てなくなり、他人の痛みに鈍感になってしまうという連鎖は非常に恐ろしいものです。依存症の背景には強いストレスや人間関係の希薄さがあるというお話もありましたが、これは個人の問題ではなく、私たちが働く職場の雰囲気や、周囲との関わり方そのものが問われているのだと実感しました。

これからの時代、情報を扱う上でもっとも必要なのは、高度な技術力ではなく「何のためにその情報を使うのか」という明確な目的意識と、道徳的な判断力です。情報は常に、送り手と受け手の間に存在するものであり、そこには必ず「相手」がいます 。

今後は、情報を単なるデータとして扱うのではなく、その先にいる人間を想像する「思いやり」を持ちたいと思います。自分自身の発信に責任を持ち、無知による差別を生まないよう学び続けること。そして、周囲の変化に敏感になり、誰もが安心出来る居場所を常に感じられる健やかな環境を作ること。それが、デジタル社会における人権尊重の具体的な実践であると確信しました。

(セキスイボード㈱　田代憲一・記)

第22回総会後の特別研修 【2026年4月24日(金)】

2026年4月24日(金)甲賀市企業人権啓発推進協議会第22回総会に続いて、特別研修会が開催されました。

研修内容は、昨年と同題材の「カスタマーハラスメント」とし、今回はその対策セミナーを特定社会保険労務士　公認心理師　山田真由子さんに講演して頂きました。

カスタマーハラスメントは、カスハラと略されており、働き方改革が叫ばれたあたりから、よく耳にする言葉であります。

この研修では、カスハラ定義、分り難いクレームとカスハラの違いの説明、カスハラ行為の型を9種類に分類し、説明を頂きました。

カスハラ対策がなぜ必要であるのか、働く人の人権を守る事の意義を基準に組織として何をすべきか、何が出来るのかを事例を挙げて詳しく説明をして頂きました。



やはり社内でのコミュニケーションを計り、統一した見解や対応をマニュアル作成し、教育して共有する事の大切さを痛感致しました。

カスハラへの認識を新たに更新できた、有意義な研修でありました。

(㈱滋賀松風　宇野　友一・記)

障がい者雇用に係る学習・懇談会 【2025年11月5日(水)】

2025年11月5日(水)に甲賀市水口町にある住友電工プリントサーキット様を訪問させて頂いた。こちらの事業所で本格的に障がい者雇用をスタートされたのは1980年代からとのことで、最初は聴覚障害者から雇用をスタートされた。工場にはクリーンルームがあり、小さな製品を扱っておられ、障害の特性によっては細かな作業や繰り返しの作業が得意な人もいるので、障害の程度や得意・不得意に合わせられる業務が多岐にわたり、働ける場所の提供がしやすい職場だと感じた。

また、グループ企業ではあるものの障がい者の特定子会社には属さず、自分たちの事業所で出向者も常用雇用者も含んで法定雇用率を上回る障がい者の雇用は、様々な工夫や企業努力により実現されていると思う。


住友電工プリントサーキットより説明

ジョブコーチの役割とは、障がい者が職場に円滑に適応し、安定して働き続けられるように、本人と企業の双方を支援すること。受け入れる現場の担当者の声を聴き、どのようにしたら、障がい者に継続して就労してもらえるのか、事業所内全体で障がい者を雇用しないといけない機運があり、見習いたいと感じた。


御礼の挨拶される山村会長

また、障がい者自身の配慮してほしいことを書き出してもらい、見える化しているところや部署への情報共有のツールとしても、すぐに取り入れたい取り組みだと感じた。面談の内容も仕事だけでなく生活面に至るところまで支援しているところは、障がい者にとって企業で働く中で安心材料となる。合理的配慮が必要とする障がい者にも優しい企業でいることが、障がい者雇用を継続する上で、大切なことと感じた。

まずは、相手の立場に立つことだと思います。

(㈱ジーテクト　東川弘美・記)

人権教育研究大会に参加して 【2025年11月22日(土)】

2025年11月22日(土)に、秋晴れの中、甲賀市の碧水ホールにて、人権教育大会が開催されました。

「誰もが自分らしく生きられる社会をめざして、知ろう、考えよう、つながろう」を大テーマとし、実践発表、講演が行われました。

はじめに、地域の取り組みとして、人権教育推進協議会紫香楽支部の皆様が、「油断大敵架空請求詐欺」という題で、朗読劇をしていただきました。パソコンがフリーズして、警告音鳴り響き、その画面に出てきた、電話番号に電話し、パソコンは直ったが、やり取りする中、お金を取られそうになったという内容でした。相手の弱みにつけこんだ深刻な人権侵害です。このような事態になったとき、まず家族や友人などに相談する、また周囲の方の見守りが大事であると感じました。

２番目の実践発表では、甲賀市立小原小学校　安田紘樹教諭が学校での人権の取り組みについて発表していただきました。まず先生が、人権について学べる研修があること。また小原小学校での人権に対する取り組み内容について発表がありました。その中で、「かがやき発見隊」という取り組みがあり、自分が輝いていると思うことや、他者が輝いていることを発見し、発表するということです。自分の良いところ、相手の良いとこを発見でき、自己肯定感を持つことができるすばらしい取り組みであると思いました。

最後に「見えないからこそ見える世界～ちがいを力に～」という演題で、片岡亮太さん（プロ和太鼓奏者・パーカッショニストで全盲）が迫力ある和太鼓演奏と講演をしていいただきました。まず質問がありました。「みなさん豚汁に絶対入れたい具は何ですか、豚、みそは除いてくださいね」会場のみなさんが「大根、ごぼう、さといも・・・」などいろいろな具を言いました。片岡さんは、「キムチ」と言われました。はじめその答えにびっくりしました。でもしばらくして美味しいかも思いました。ここで気づきました、固定観念を持っていること、いろいろな考えがあり、それを知ることで、あらたな発見があり、これが多様性なのだということ。社会のなかでも、自分の固定観念、狭い範囲でしかみていないのではないか、これが偏見を作りだしていること。いろいろな人に興味をもち、知ろうとする気持ちが、偏見のない、差別のない社会を作っていくことに気づかされました。

この大会をとおして自分やいろいろな人に興味をもち、多様な考え、感じ方を知り、多様性ある社会を目指して日々過ごしていきたいと思いました。

((社福)あいの土山福祉会　山田　裕子・記)